

**令和 4 年度 大分県小・中学校教育課程研究協議会の重点**  
 (義務教育学校前期課程、後期課程については、それぞれ小学校、中学校と読み替える)

**1 改善の重点について**

各教科等において児童生徒の資質・能力の育成に向けた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を、「新大分スタンダード」「GIGA スクール構想」の観点から一層推進する。

**令和 4 年度 改善の重点**

**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元の指導計画作成による授業改善  
 ~GIGA スクール構想のもと、各教科等の目標や特質に応じた 1 人 1 台端末の活用をどのように進めるか~**

**(1) 設定理由**

- 児童生徒に「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力が偏りなく育成されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めることが重要です。
- 学習指導要領が全面実施となり、さらに GIGA スクール構想が加速する中で 1 人 1 台端末や高速ネットワークが整備され、各学校においては環境整備のフェーズから**活用促進のフェーズ**へと移行しました。
- ICT の効果的な活用については、学習指導要領総則第 3 の 1 の (3) や令和 3 年 1 月の中央教育審議会答申に次のような記述があります。

◆**学習指導要領総則第 3 の 1 の (3)**  
 (前略) 情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。

◆**令和 3 年 1 月 26 日中教審答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」**  
 1 人 1 台端末環境を生かし、端末を日常的に活用することで、ICT の活用が特別なことではなく「**当たり前**」のこととなるようにするとともに、ICT により現実の社会で行われている方法で児童生徒も学ぶなど、学校教育を現代化することが必要である。児童生徒自身が ICT を文房具として**自由な発想で活用**できるような環境を整え、**授業をデザイン**することが重要。

○これらを受け、情報活用能力等学習の基盤となる資質・能力の育成や、各教科等における資質・能力の育成のため、各教科等の学習指導において **ICT の特性・強み**を生かし、1 人 1 台端末を活用した授業づくりを行うことが求められます。単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しつつ、児童生徒の発達段階や各教科等の特質を踏まえ、ICT 活用により指導の効果が高まる場面を見極めたり、指導者が意図をもって ICT 活用場面を位置付けたりすることが大切です。

◆**ICT 活用の特性・強みとは**

- ①**多様で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤**
  - ・ウェブブラウザによる情報収集、表計算ソフトによるデータの整理・分析、試行錯誤の繰り返し など
- ②**時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化**
  - ・写真や動画の撮影、保存による学習過程の可視化、振り返りや目標設定への反映 など
- ③**空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報共有 (双方向性)**
  - ・ウェブ会議機能、ファイル共有機能等による他の学校、地域や海外との交流
  - ・ウェブ会議機能等による他者との意見共有、比較検討、合意形成、協働制作 など

**小学校・第 5 学年・理科「流れる水の動きと土地の変化」①**

**育成を目指す資質・能力**  
 流れる水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら、流れる水の動きと土地の変化を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

**ICT活用ポイント**  
 繰り返し行うことが難しいモデル実験を行う際、ICT端末の動画撮影機能を使って、水の動きと土地の変化の様子はどのように変化しているか、実験結果を確認しながら考察を行う。

**事例の概要**  
 本事例では、「大雨のとき、実際の川沿いの土地の様子はどのように変化するのだろうか」という問題に対して、前時までに学習を通して獲得した「流れる水の動き」に関する知識を、実際の川が増水したときの土地の様子の変化に当てはめて予想し、モデル実験を構想している。  
 そして、モデル実験を行う際、ICT端末の動画撮影機能を使って、土地の変化の様子など、実験の結果を動画で撮影することとした。  
 また、考察する際、クラウド上で共有した動画を各自で確認しながら、自分なりの考えをまとめるようにするなど、必要に応じ、実験の結果に立ち返りながら、問題解決を行うことができるようにした。

**【ICT活用場面と工夫】**  
 ・モデル実験の際、ICT端末の動画撮影機能を使って、土地の変化の様子を撮影する。他の班の実験結果も見るができるよう、録画した動画をクラウド上で共有する。  
 ・必要に応じ、自分の班や他の班の実験結果を映映で確認し直しながら、各班で考察を行う。  
 ・各班での考察の後、自分の考えをまとめる際にも、友達との発想から気付いたことがあれば、映像で改めて確認するよう促す。

**【ICT活用で期待される効果】**  
 ・何度も実験を行うことが難しい場合でも、実験の結果を記録に残すことで、見落とししたところを確認し合いながら考察を行うことができる。  
 ・自分の班の実験結果だけでなく、他の班の結果と比較して、再現性の条件を踏まえて考察を深めることができる。  
 ・子供が考察を発表する際、その考察の根拠となる結果を示しながら行うことができる。

【活用したソフトや機能】動画撮影機能、学習支援ソフト

**問題解決の過程を見通した、理科における活用例**

**(2) 研究を進めるに当たって**

- 単元の指導計画(指導と評価の計画)を作成し、各教科等の目標や特質を踏まえ、1 人 1 台端末の活用場面を設定すること。また、どの時間に何を評価するのかを整理すること。
- 学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として確実に実現されるようにするため、**単元の目標や評価規準を適切に設定**すること。また、各時間の評価規準については、「B と判断する児童生徒」について具体的な姿を想定して設定するとともに、「C と判断する児童生徒」への具体的な手立ても想定すること。

**(3) 参考とすべき資料**

- ① 「早わかり！単元計画の作成手順」(義務教育課ホームページ)
- ② 文部科学省 Studx Style ウェブサイト 各教科等における 1 人 1 台端末の活用事例

